

『区民の方にインタビュー』全文版



今回は、「NPO法人 久屋・エコまちネット」の理事長として久屋大通のまちづくりにご尽力されている鰐部泰子さんにお話をうかがいました。

HPでは、東土木だよりでお伝えしきれなかった、久屋大通への愛着や、守り続けたい歴史や風景など、鰐部さんの熱い想いを、インタビュー全文にのせてお届けします。

(※久屋大通は東側の道路が東土木事務所の管理です。)

始まりは、地元愛！

―活動内容と、活動を始めたきっかけを教えてください。

私たちは、久屋地域を魅力溢れるまちにするためにNPO法人として活動しています。

現在は、公園や歩道に花苗を植えてきれいに管理したり、公園で人々の憩いとなるようなイベントを行ったりしています。

会員数は60名前後、うち8名が役員です。イベント毎の参加者もいます。会員の方は地域の方が多くですが、このまちの雰囲気が好きで活動に賛同して参加してくれている地域外の役員もいます。このような方は、このまちを客観的に見てくださるので助かっています。

活動を始めたきっかけは、自分が生まれ育ったまちへの愛着です。久屋・大須・栄ミナミなど、まちにはそれぞれイメージがあります。久屋地域のイメージはこの地域で守っていかうと思ったのです。

そこで、新たなまちづくりではなく、「今ある地域の良さを特化していきたい。まちの根底を

しっかりさせたい。」という想いで、平成21年からNPO法人として活動をはじめ、理事長であった父から活動を引き継ぎました。

このような想いで久屋大通を見渡してみると、名古屋市が歩道に設置した大きな丸い花壇がほったらかしで、まるで灰皿やゴミ捨て場のような状態になっていました。これではいけない、なんとかしようと思い、花壇へ花苗を植え始めました。

理事長としては、花壇のイメージづくりや、ボランティアの参加者や賛同企業を集めるために、チラシのポスティングや企業回りをしています。今では歩きながら花壇の手入れをするのが日課になっています。



めげないことが大切！

―花壇のお世話、本当にありがとうございました。
とても素敵な花壇ですね。

私は、ただ季節の花を植えるだけではなく、
まちのイメージに合わせた花壇づくりを心掛けて
います。

ガーデニングプランナーの大島紀子さんと一
緒にデザインしながら、寄せ植えで格好良く
見えるように、今春は紫・ピンクでいこうなど
色々と考えています。

たかが花ではありませんが、お金はかかっても、
素敵な花壇にしたいという想いが強いです。

花植えはボランティアを募集し、みんなで植
えています。ボランティアさんには苗を分けた
りしています。みんなでやれば早いですが、そ
れでも大変、というのが実感です。

ここまでするには苦労しました。土も悪い、
木陰の花壇だと日陰で花が咲かなかったり、咲
いても思ったほどにならなかったり・・・
チューリップを切られたり、良い苗をとられ
たり。缶などが捨てられたこともありました。



また、ボランティアをお願いした際、否定的
な言葉をかけられたこともありました。
色々なことがありましたが、大事なことはめ
げないこと。私はめげません。

―イベントについても教えてください。

公園がまちのコミュニケーションの場となれ
ばと思い、講師を招いてワンコイン（参加費5
00円）で太極拳講座をしています。

また、毎年名古屋まつりで「ひまわり展」と
いう、久屋大通公園を美術館にするイベントを

行っています。（公園にひまわりをモチーフにし
た作品を500点ほど展示するもの。）

去年は、公園内にハンモックをつくるイベン
トも共催したのですが、ハンモックで休んだり、
子供と遊んだり、昼寝したりと、しっかりと座
って楽しそうな、いい時間を過ごされる方が
大勢いました。

これまではイベントは大勢の人が来たら成功
と思っていましたが、その光景を見て、お越し
いただいた方々にいかに楽しんでもらい充実し
た時間を過ごしてもらえるか、が重要であると
気づきました。久屋地域をいつもこのような充
実感が全体にあるようなまちにしたいと思いま
した。

守りたいもの 変わるべきもの

―活動のモチベーションは何ですか？

やめようと思えばやめられると思ったことも
ありました。しかし、まちのイメージを考える
とやめるわけにはいかないという強い思いでこ
こまできました。

それはやはり自分が生まれ育ったこのまちに

愛着があり、その歴史も含めて守りたいと思っ
ているからです。

そして、喜んでくれる人がいることが活動の
エネルギーとなっています。

「お花を植えているのはあなただったのね。遠
回りだけど、あえてこの通りを歩いているの
よ。」「と声をかけられた時は本当に嬉しかったで
す。

活動を知り、近くにお住まいのデザイナーさ
んがチラシづくりを申し出てくださったり、口
コミで活動を広めてくださる方がいたり、寄付
してくださる方がいたり。

多くの方に力を貸していただけることをすこ
くありがたく感じますし、私の支えになってい
ます。



緑政土木局補修班イメージキャラクター

「どりょくん」

「行政との関わりはどの程度ですか？」

組織としてというよりも、やはり人と人の関
わりが大きいですね。

私たちが何を目指しているかをしっかりと汲み
取ってくれる市の担当者もいました。

何度も土木事務所に通ったことで、人との結
びつきは強くなっていたように思います。

しかし、問題のひとつが駐輪対策です。お花
がきれいに咲いても自転車の駐輪でつぶされて
しまいます。私たちも色々と対策はしましたが、
名古屋市と取り組んでいく共通の課題なのかな
と思っています。

名古屋市の公園や歩道なので口を出すことは
できませんが、名古屋市に対しては、いい加減
なことだけはしてほしいと思っています。

まちづくりはまちを愛する人々で

「今後の展望について教えてください。」

これからもっと我々の活動の賛同者を増やし
ていきたいです。

今まではホームページやSNS、チラシや口

「コミなどで広報してきました。」

最近では、少しでも花のを知ってもらいた
め、「コンビニや協力してくれるお店に、花の募
金箱を設置してもらっています。花苗を買った
めではなく、周知することが一番の目的です。
花壇には募金箱の設置場所を書いてアピールし
ています。

はじめ、まちづくりは地域の人が必要ならな
ければいけないと思っていました。

でも、このまちは外からも多くの人が来ます。
なので、最近はこのまちの人だけでなく、まち
を愛してくれる人と共にこのまちを守ってい
たいと思っています。

